

電子書籍と出版文化の未来

—流通基盤構築と出版デジタル機構の役割

2013年2月22日

植村八潮

専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科

(株)出版デジタル機構

植村八潮



- 専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科
教授 博士(コミュニケーション学)
 - 出版学, 電子出版論, デジタルメディア研究, デジタル読書, アクセシビリティ
 - コンテンツ生成から流通, 読書環境まで
 - 標準化(文字コード, 外字異体字, フォーマット)
- 株式会社出版デジタル機構取締役会長
- IECTC100/TA10(国際電気標準会議eブック標準化分科会)マネージャー
- 主要著作:『電子出版の構図:実体のない書物の行方』(印刷学会出版部, 2010年)ほか

出版産業の国際化とIT化

- 出版産業は、言語依存し、各国固有の社会制度、文化に深く関わって発展
- グーグルブック検索訴訟和解の衝撃(2009)
- 携帯電話、スマートホン、タブレットPC、電子書籍端末などデバイスの普及
- アマゾン、アップル、グーグルなどプラットフォームの躍進
- 活字離れではなく、情報流通の変化と読書の多様化

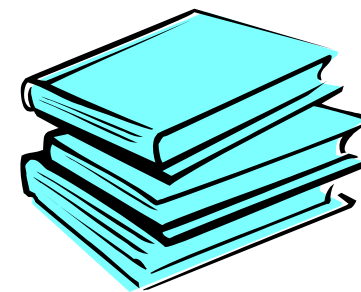


- 電子出版市場の拡大、あらたなる出版産業の育成策が求められる
- 出版文化を支える新たな制度設計を官民協働(公共)で取り組む必要

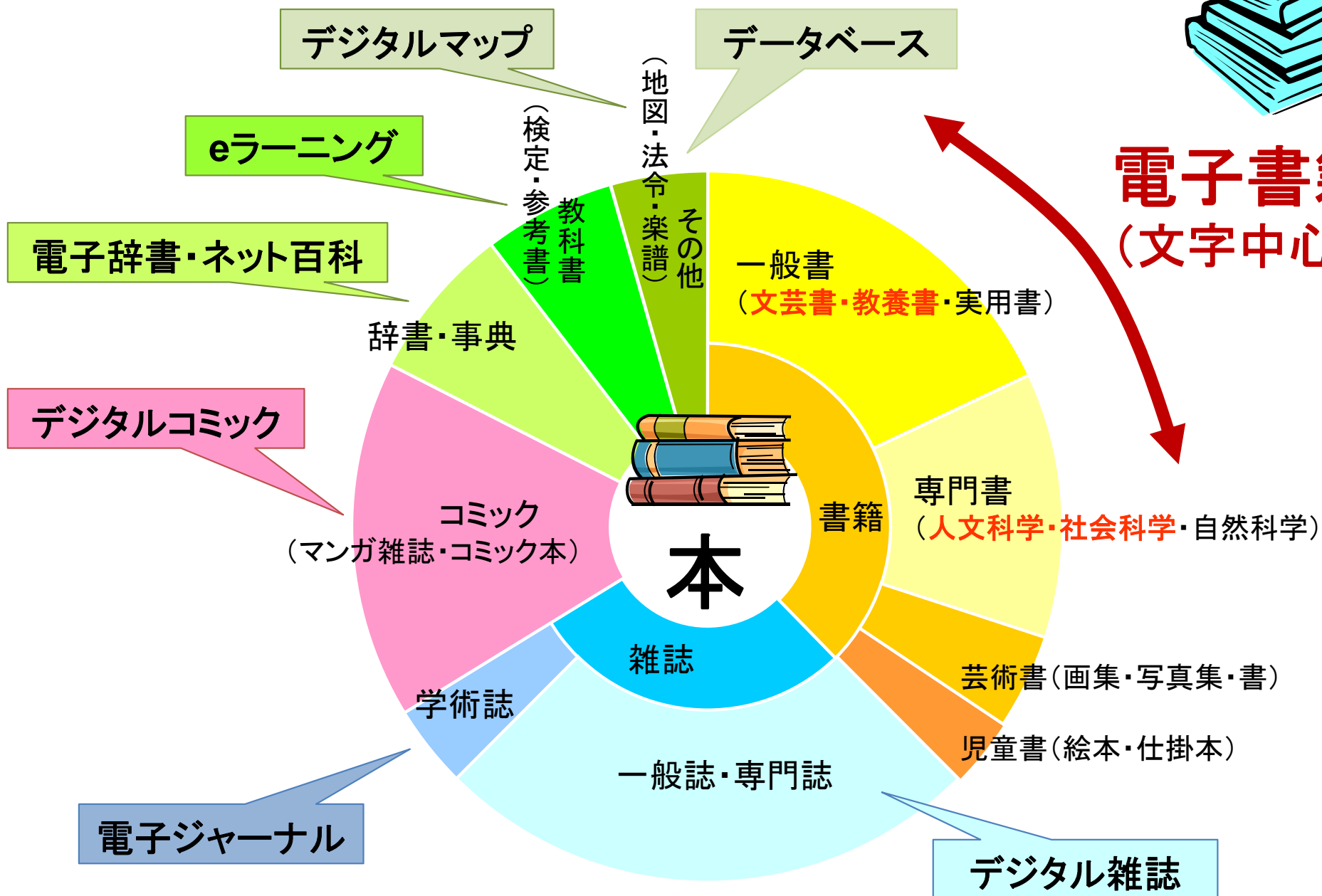
日本の電子書籍市場の特徴

- 日本型電子出版市場
 - 電子辞書・コミック・ケータイ小説など成功事例
 - 携帯電話向けが主流で電子書籍売上げの約9割。
 - コンテンツの多くはコミック
 - 約20万点のうち、文字作品は約5万点
- 電子書籍端末市場に期待
 - 米国型電子書籍端末市場が未成熟
 - 2011年国内電子書籍市場、629億円(3.2%減)
- 電子書籍(出版物の電子化)
 - 定義「既存の書籍や雑誌に代わる有償の電子的著作物(デジタルコンテンツ)で、電子端末(ハード)上でビューワー(ソフト)により閲覧されるフォーマット化されたデータ」

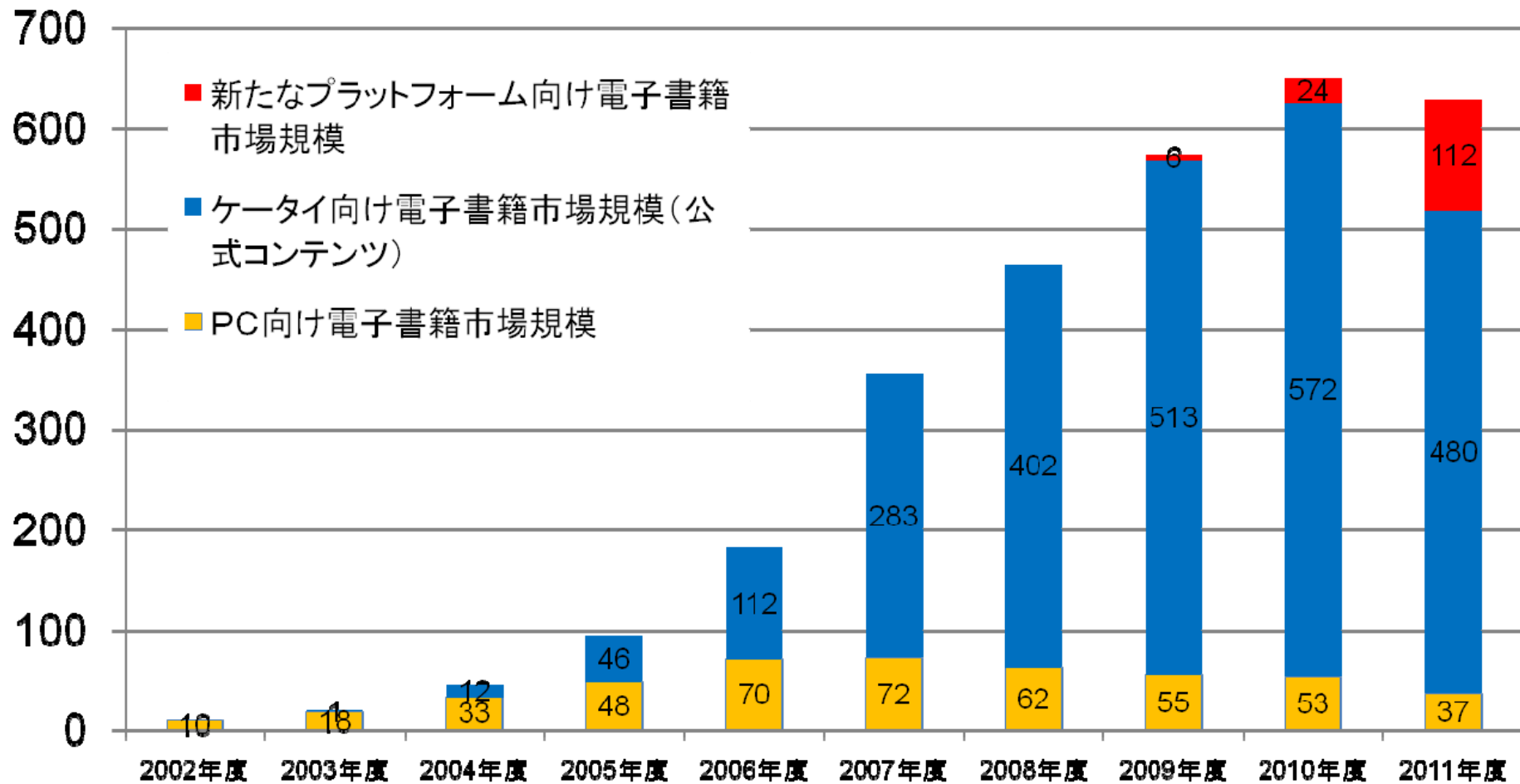
「電子書籍」に向く本の種類



電子書籍
(文字中心)



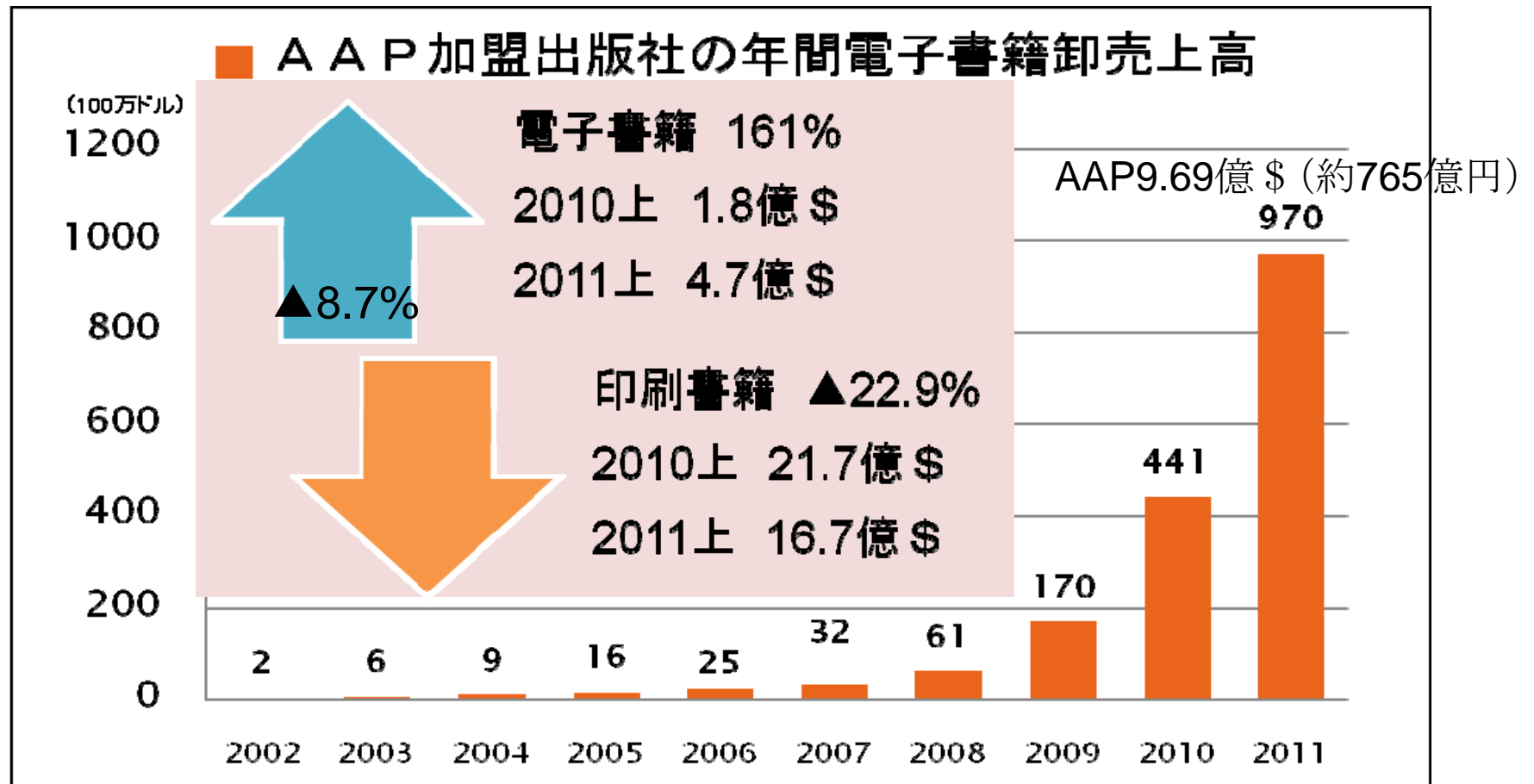
2011年国内電子書籍市場、629億円(3.2%減)



(出所:株インプレスR&D著「電子書籍ビジネス調査報告書2011」を基に作成)

米国電子書籍市場の拡大と問題

AAP/BISG書籍市場統計レポート「BookStats」を発行
2011年度米国電子書籍売上高20億 \$ 1580億円以上



(出所: AAP(アメリカ出版協会)のデータを基に作成)

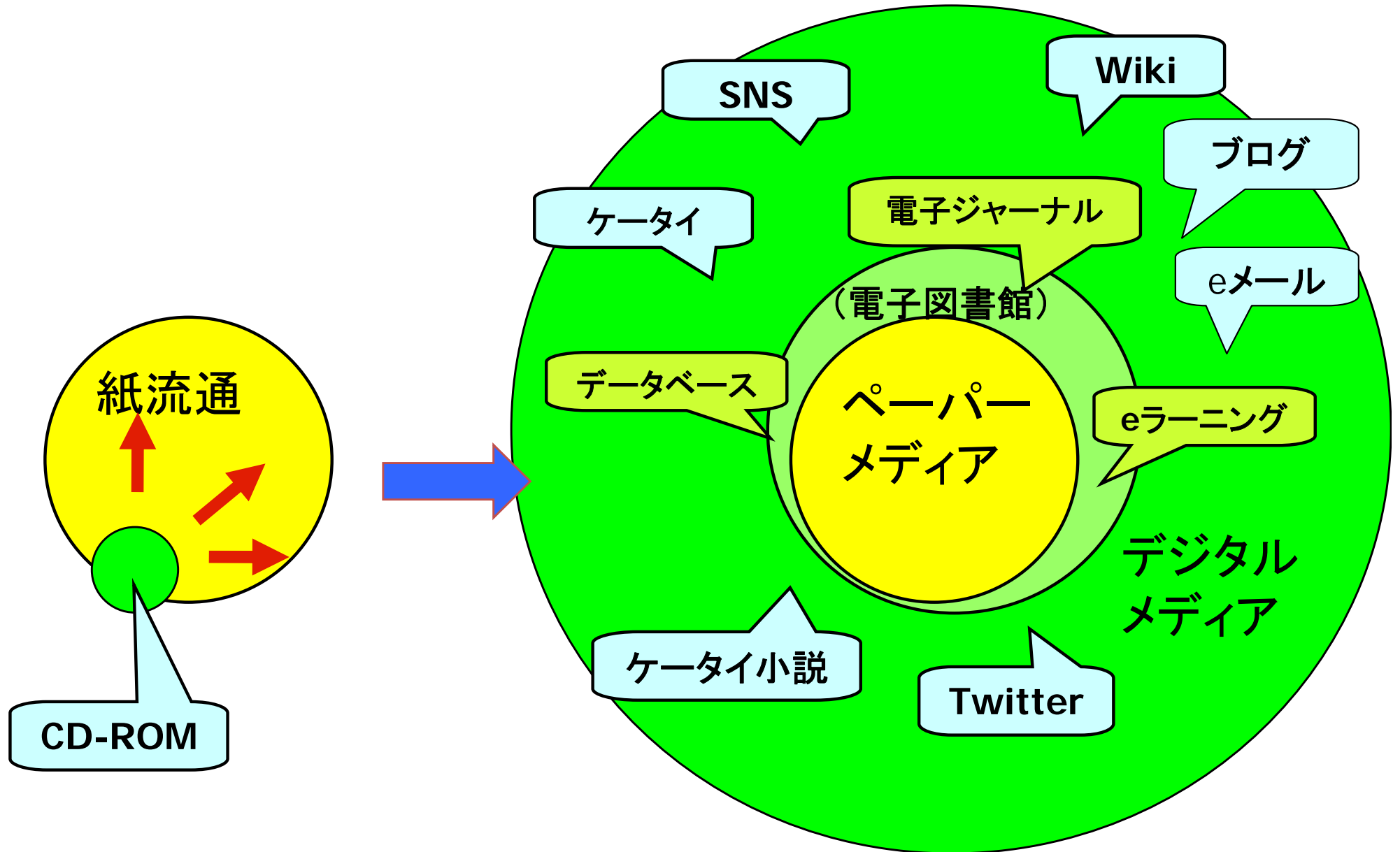
“カニバリズム”が“イノベーション”か

- 背景
 - 印刷技術からデジタルネットワーク技術へ
 - 印刷物からデジタルコンテンツへ
 - 物流から情報流通（ネットワーク）へ
- カニバリズム
 - 電子書籍が印刷出版市場を奪い、価格破壊を起こし、市場規模が小さくなる（プラットフォームの躍進と寡占）
- イノベーション
 - 電子書籍が既存のビジネスモデルを破壊するが、そのことで新たなビジネスが生まれ、新しい表現をユーザーが受け入れ、市場創出により規模拡大が起こる（self publishingの注目）
 - E.L.ジェイムズ3部作『Fifty Shades of Grey』世界6,300万部突破

電子書籍(端末/コンテンツ)の三つの流れ

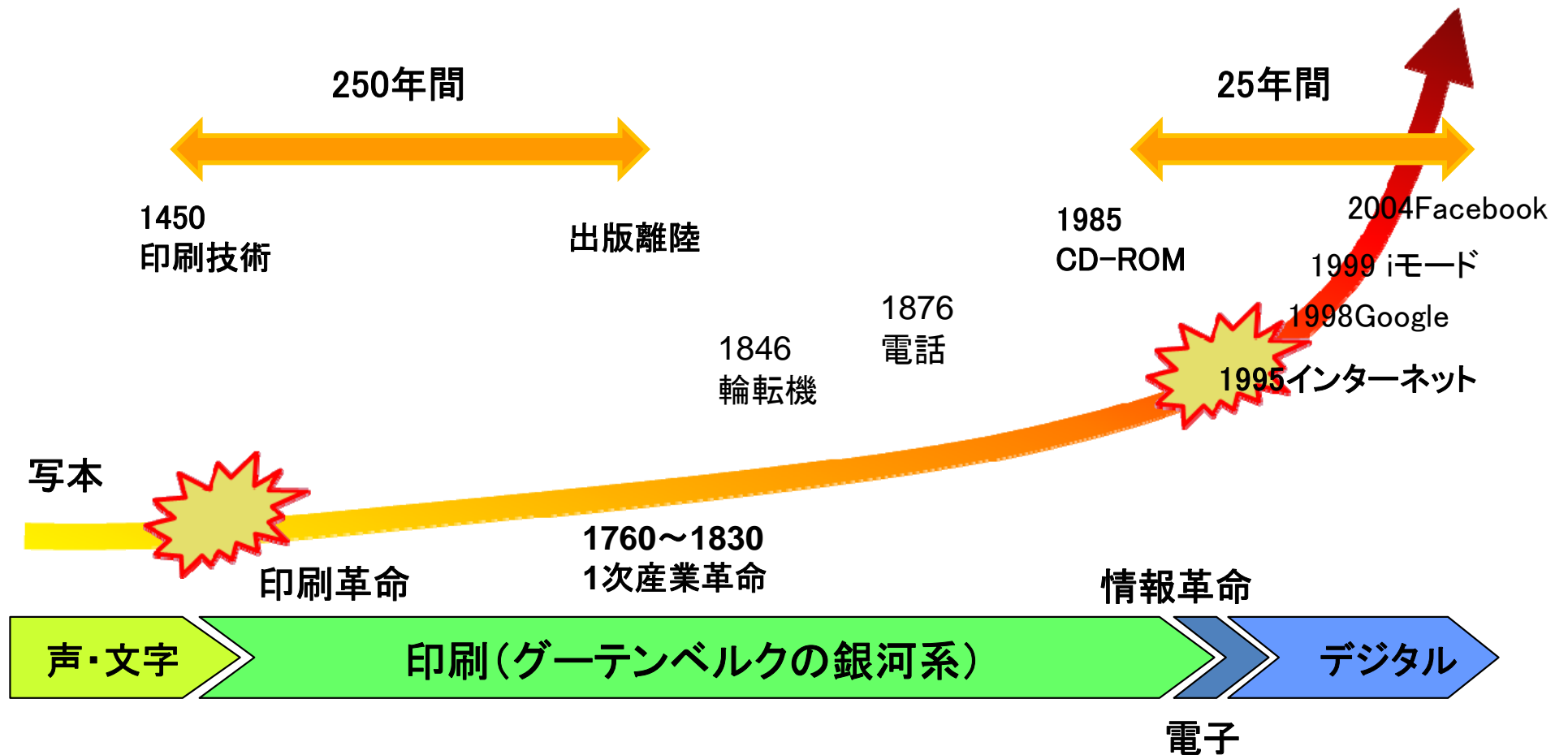


文字情報流通の主役交代



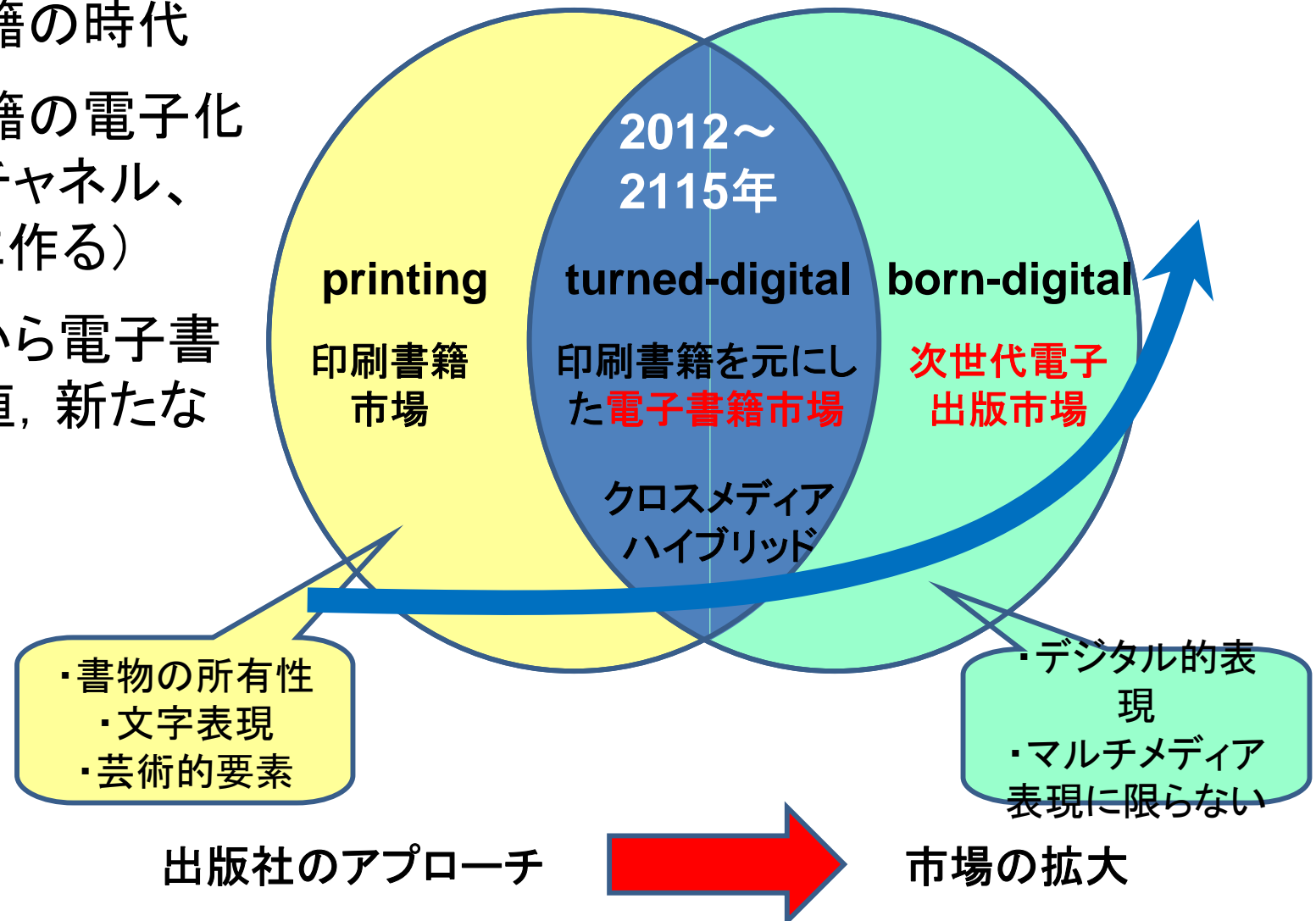
情報量増大の社会的・技術的要因

印刷複製技術と伝達方法によって出版が変化
デジタル複製とネット流通によって劇的な変化

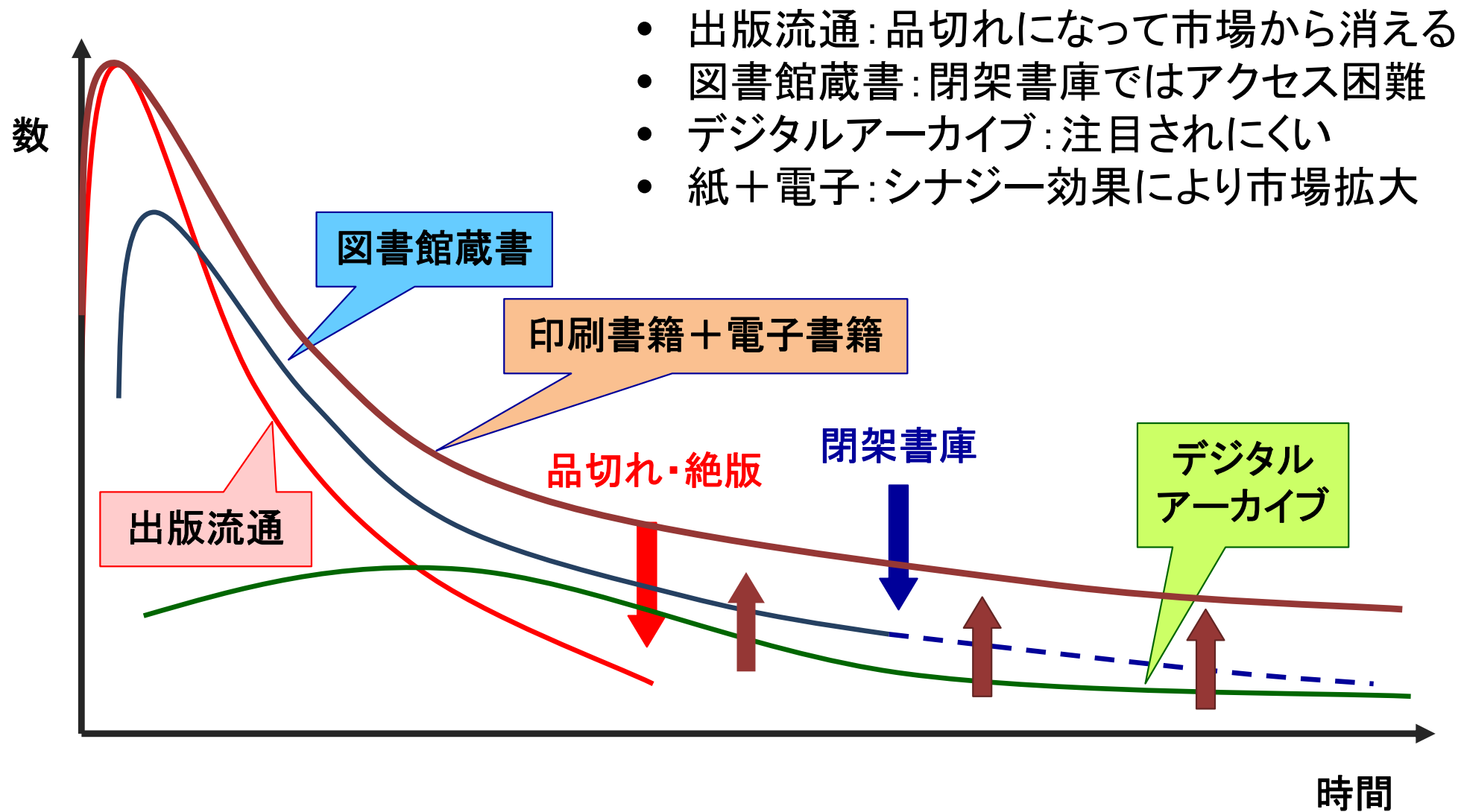


書籍と電子書籍の将来市場

- 過去：印刷書籍の時代
- 現在：既存書籍の電子化
(新たな販売チャネル、早く安く多量に作る)
- 将来：はじめから電子書籍(新たな価値, 新たな表現)

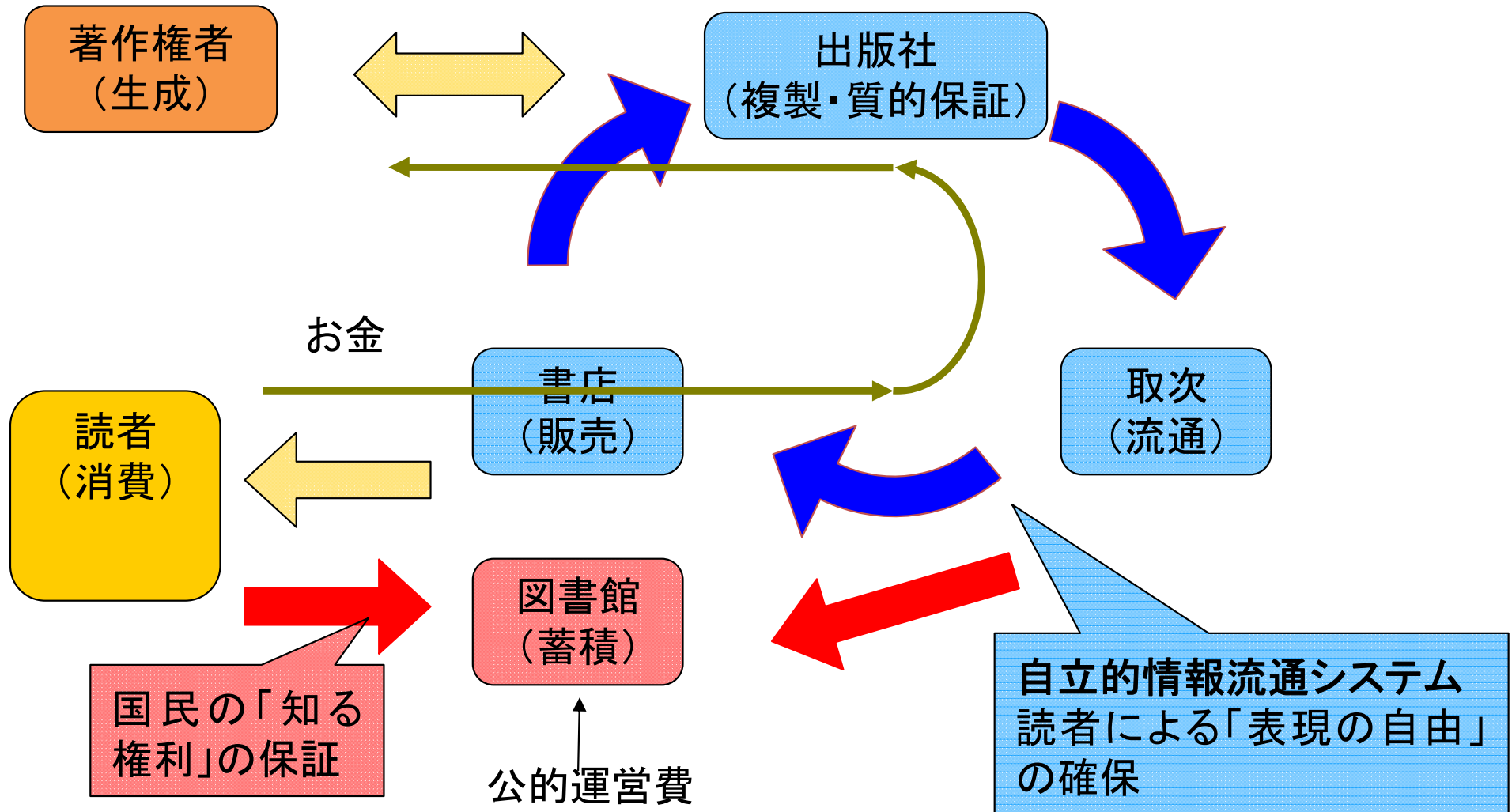


出版流通と図書館蔵書とデジタルアーカイブ



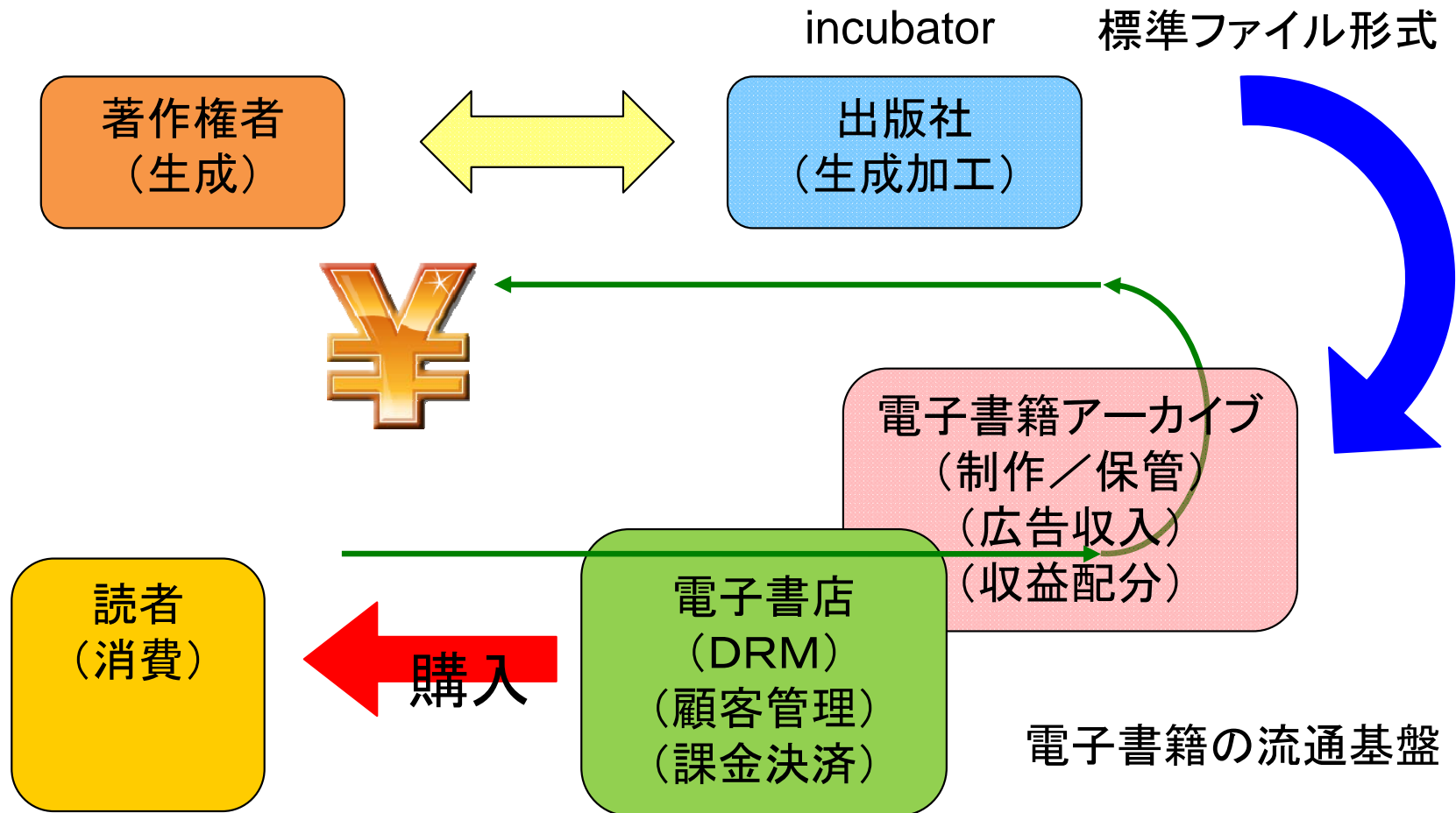
- 出版流通: 品切れになって市場から消える
- 図書館蔵書: 閉架書庫ではアクセス困難
- デジタルアーカイブ: 注目されにくい
- 紙+電子: シナジー効果により市場拡大

従来の出版流通と図書館



税金を使っているから**無料**なわけではない

電子書籍の流通基盤



“電子出版元年”以降の出版関連行政(1)

- 総務省, 経済産業省, 文部科学省「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」平成22(2010)年3~6月
 - 出版物の収集・保存や円滑な利活用のあり方, 出版物へのアクセス環境の整備
 - ① 表現の多様性の確保
 - ② 知のインフラの整備
 - ③ 世界に負けないビジネスモデルの構築
- 総務省「新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業)」平成23年度
 - 電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト
 - 次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備
 - 次世代電子出版コンテンツID 推進プロジェクト
 - アクセシビリティを考慮した電子出版サービスの実現
 - EPUB 日本語拡張仕様策定 他5事業

“電子出版元年”以降の出版関連行政(2)

- 文化庁「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」
 - － 平成22年11月設置 報告書公表 平成24年1月
 - ① デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスの在り方
 - ② 出版物の権利処理の円滑化
 - ③ 出版者への権利付与
- 経済産業省「書籍等デジタル化推進事業」平成23年度
 - － 個々の出版物の特性に応じた契約を円滑化する取組の構築
 - － 中間・交換フォーマットの出版社・印刷会への普及促進
 - － 外字・異体字が容易に利用できる環境の整備
 - － 書店を通じた電子出版と紙の出版物のシナジー効果の発揮
- 電子書籍の流通環境が未熟であり、戦略的な基盤づくりが求められている
 - － 小資本の出版社でも参入できる環境整備
 - － 電子書籍制作のノウハウの共有

株式会社 出版デジタル機構 (パブリッジ)

- ・ 出版デジタル機構は、電子出版ビジネスのためのインフラストラクチャーの提供を通じて、あらゆる本が電子書籍として読める読書環境を整備。電子出版に関わる様々なビジネスモデルを支援して、誰もが電子出版による自由な言論表現活動に参加できる社会の実現を目指します。
- 多くの出版社による提案により設立(2012.4)。直ちに政府系ファンド(150億円)や大手印刷会社の増資
- パブリッジが架け橋となることで
あらゆる端末、あらゆる書店、あらゆる出版社を結ぶ。全ての著者、読者が参加できる場を作りたい



株式会社 出版デジタル機構

経済産業省「コンテンツ緊急電子化事業」

平成23年度補正予算

- 事業趣旨
 - 電子書籍市場の拡大と東北大震災被災地域の雇用促進に向けて、書籍の電子化作業に要する製作費用を国が補助する
 - 補助率は費用の50%, 補助金額約10億円(事業総額:約20億円)
- 補助金達成率(暫定)92% (2012年1月28日現在)
- 電子書籍制作ファイル数
 - 44,184(フィックス型)+21,970(リフロー型)=66,154
- フォーマット:あらゆる電子書店の配信に対応
 - フィックス型(校正不要で制作費が安く, 早い)
 - TIFF 600dpiで画像化(OCR対応可), JPEG圧縮での課題
 - 表・図版入り書籍(専門書)の電子化に向く。一方, 図版の文字が読みにくい
 - リフロー型(DTPデータと文字入力から制作)
 - .book, EPUBへの対応

出版物に関する権利(著作隣接権)の検討

- 2008年 グーグル・ブック検索訴訟、和解案予備承認
- 2009年 国会図書館デジタル化に127億円の補正予算
- 2010年 総務・文部科学・経済産業「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」
- 2011年 文化庁「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」
- 2012年 書協が、権利付与が電子書籍市場に与える全般的影響を調査、文化庁は、法制面の検証会議を実施
- 2012年6月 「印刷・電子文化の基盤整備に関する勉強会」
(中川勉強会) 中間まとめ公表
- 2012年6月 活字文化議員連盟 声明発表
- 2013年1月 第1回『出版物に関する権利』運用ガイドライン委員会

「出版物に関する権利」とガイドライン

- 権利の目的
 - － 違法複製・違法配信に対応するため
 - (法律構成上の主たる目的)
 - 出版社(者)には、海賊版・違法配信を訴える権利がない
 - － 電子書籍の利用・流通の促進のため
 - (本当の目的)
 - 出版社(者)機能は、ますます重要
- ガイドライン
 - － 解釈基準, 運用ルール, 契約慣行の透明化
 - － 紛争調停機関の検討

知の構造体の変容

- 過去：知と情報は紙／印刷によって流通・保存
- 現在：ネット上に膨大なデジタル情報が創出
- 多くのデジタル情報は信頼性が担保されていない
 - 知識の構造化体系化 から 情報検索データ集合 へ
 - 作家性 から 集合知 へ
 - 責任の明確（実名）から 曖昧性（匿名性） へ
 - 信頼性/権威性 の喪失
- 出版者は知のインキュベータとしての機能を果たす

これからの出版

- 出版社が書籍とデジタル書籍を同時に刊行する
- ハイブリッド(紙+デジタル)販売／購読が普及する
- 相対的に紙のシェアは低下する
- ディスプレイ上で書籍(図書), 雑誌(逐次刊行物), 新聞(逐次刊行物)が再編され, 区別がなくなる
- 「出版とは印刷物を発行すること」, 「読書とは紙の本を読むこと」は, いずれも過去の概念となる
- 出版物のデジタルアーカイブ・電子図書館は民間によるデータサービスとして普及する
- 民間事業におけるサービスの中止, 倒産・買収による喪失の危険は今後とも続く

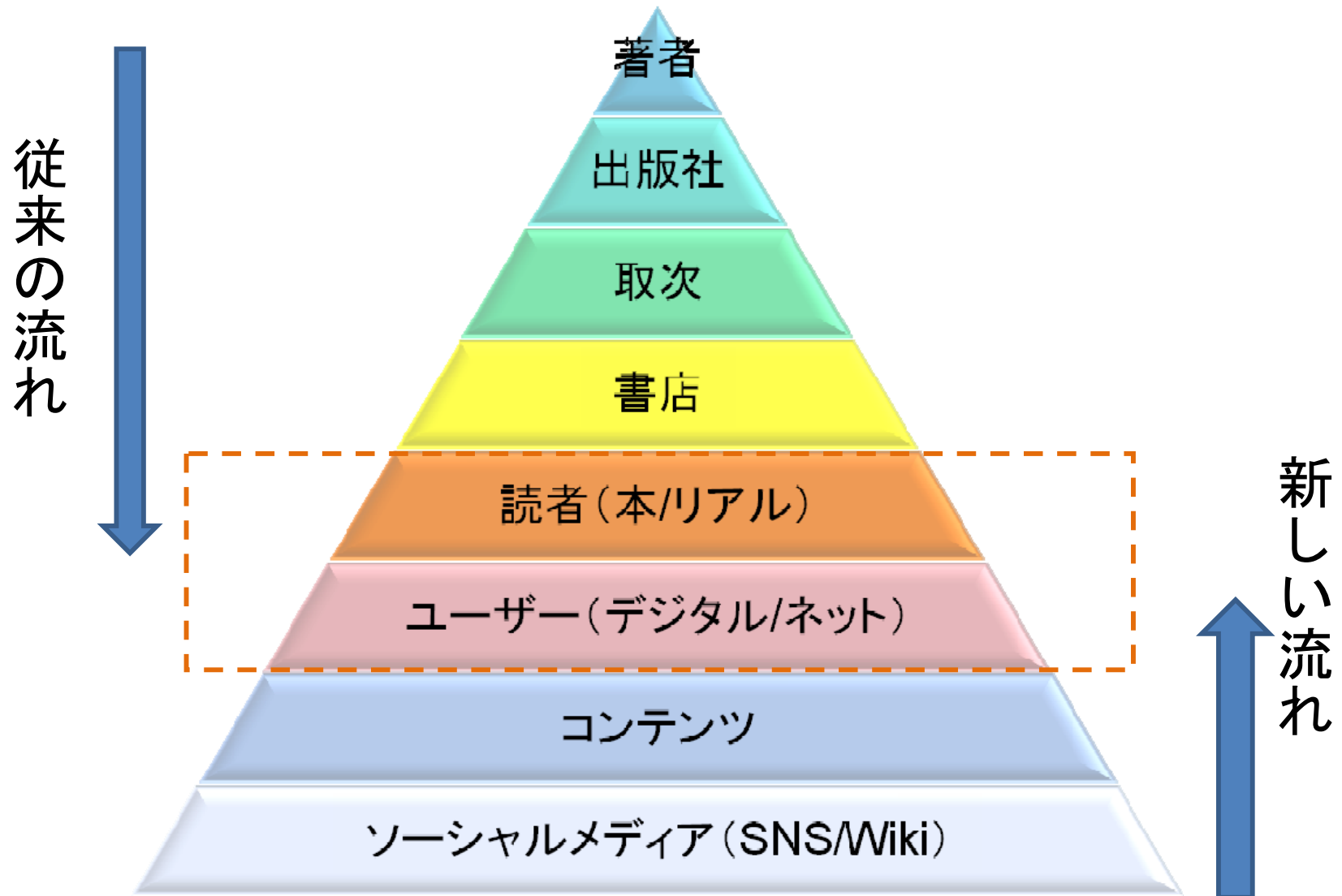
電子図書館を考える7つのポイント

- 電子図書館モデルは公立図書館と大学図書館と分けて考えるのか
- 販売モデルは一冊ごとか、パッケージ販売か
- 全文検索は必要か？
- 図書館利用者による電子書籍館外貸し出し
- 図書館による電子書籍のタイトルの購入モデル
- DRMの問題
- 図書館に販売する電子書籍の値段

「図書館の未来」への期待

- 国立図書館「インターネットアーカイブ」への取り組み
- 永続的保存のための「ダークアーカイブ」と、そのための「電子納本制度」
- 図書館の役割は、「情報へのアクセス」の保証
- 公共図書館：“図書（物理性）”と“館（地域性）”を基点とした再編
- 大学図書館：情報空間の解体と教育空間の再構築

コンテンツの生産と流通消費



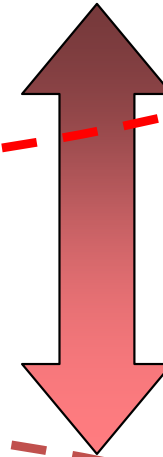
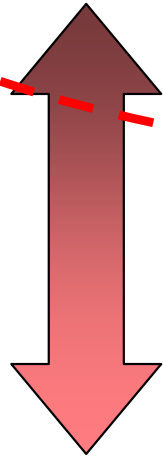
コンテンツと「信頼性」

出版・図書館

出版・新聞コンテンツ
品質・信頼性・権威

インキュベーター
天賦の才能との出会い
読者の存在と対価

Guarantee



CGM

即時性・大衆化
ケータイ小説
ウィキペディア
ネット新聞

クリエイティブコモンズ
一億総クリエイター

Best effort

ネットビジネス